



大好きな山とともに暮らしたい

たにかわ ゆ う た

谷川 友太 (28) 愛知県扶桑町

私は地域おこし協力隊の自伐型林業チームとして長浜市にやって来ました。ですが、山が好きというだけで林業の経験は全くなく、教わりながら練習して林業の技術を身に付けていくところなんです。

今後は、自伐型の林業の他にも何か別のことにも取り組み、3年後には自立しているようにと考えています。自分に何ができるか、何がやりたいかを模索中で、これからの課題です。

また、私はオリエンテーリングというスポーツもしています。毎日家の周りを走ってトレーニングをしているのですが、山がすぐ近

くもあり、道を走っている起伏があつて、トレーニングをするのにいい環境だなと感じています。長浜市の北の方では山も多いので、トレイルランニングなど山を使ったスポーツもできないかと少し考えています。



楽しいは正義！そして、自分の好きを信じる。

ふ く は ら ゆ う た

福原 雄太 (27) 岐阜県岐阜市

そもそも「地域おこし」とは、どんなことなんだろう？もしあなたが「地域おこし」をしてください」と言われたら、どんなことから始めますか。この制度を知って以来、それをずっと考えています。私は、「その地域に住む人にとって、その生活が少しでも幸せに、楽しくなる」ということが「地域おこし」ではないのかなと考えています。

私のミッションは、「余呉湖や自然資源を活用した地域おこし」です。今は、「余呉の森の中に子どもの遊び場を作りたいんです！」と言って、地域を回っている最中です。森の中で遊ぶということは、もちろんケガをすることも

多々あります。それでも、自然の中で輝いて遊びながら成長していく子どもたちの姿を見ていると、そんな場所を作りたいと、居ても立っても居られません。「子どもたちのために！」と声を大きくしています。一番成長するのは、そんな子どもを見守る大人だったりします。子どもや自然を通して、生活を楽しくしたい！という方、一緒にワクワクすることやりませんか。



地域おこし協力隊

— いま、「よそ者」「若者」が地域をおもしろくする

地域おこし協力隊とは？

いま地方都市の多くは、少子高齢化や都市部への人口流出が進み、担い手となる人材が不足しています。いっぽう都市部には、地方の自然や暮らしに魅せられ、田舎暮らしを望む若者たちがいます。

「地域おこし協力隊」は、そうした思いを持つ若者が地方に住み、そこで様々な分野の活動に携わりながら、将来的にまちづくりを担う人材として定住していくことをねらいとして、総務省が創設したものです。

地元のよさを再発見する「よそ者」の視点や、田舎を元気にする「若者」の活力を求める地域と、理想の暮らしを描く都市住民と、まちを担う人材を求める自治体。三方のメリットを確保することがポイントです。

長浜の協力隊

人口減少と高齢化の傾向が顕著な市北部に焦点をあて、次の3つを協力隊の活動分野としています。

余呉湖を活かした地域おこし活動

余呉地域のシンボルである余呉湖を中心に、既存の施設や自然を活かした地域振興事業やコミュニティビジネスの創出支援活動

芸術による地域おこし活動

歴史・文化・芸術に恵まれた北部地域の特性を活かし、廃校や既存の施設を利用した芸術に主眼を置いた振興策を企画立案、推進する活動

自伐型林業の実践と普及活動

北部地域の9割を占める森林を活用し、市が新たに取り組む「自伐型林業」のモデルチームとして、林業の実践と自伐型林業の普及に取り組む活動

協力隊の現在と今後

隊員の活動期間は、最長3年間。その後は、地域で就職したり、新たに起業したり、進む道は様々です。現在の活動は、協力隊の目的である「定住」を実現するための下地づくりが中心。まずは、地域を知るためにイベントやワークショップに参加したり、個人や団体との繋がりをつくったり、個々の知識や技術向上のための研修を行ったりしています。定住するためには、隊員が継続して仕事を続けていける環境が必要で、隊員が取り組む活動が、収入を得る仕事として持続可能なものになれば、新しい暮らしのスタイルが創造でき、さらに新たな移住希望者の獲得につながり、地域も活力を得ることが出来ます。

今年度隊員として長浜市に迎えたのは6人。それぞれの志を胸に、動き始めた隊員たちを紹介します。